

人と人をつなぐ月刊総合誌

やすらぎ

平成 20年 6月号 / 250円



るが とびだし
いた

英知の観点から知識

Q&A : 女性の権利について

許しなさい、許される為に....

『ネバーランド』

子供は鏡

歴史に見る子供の伝染病



子供を見たふとした瞬間、心が和み自然と笑顔になってしまう時があります。赤ちゃんなどその際たるものでしょう。見た目の可愛さに惹かれるせいもありますが、その子の魂の純粹さを感じて自分自身の魂が影響を受けるからかもしれません。

子供の天真爛漫さや何かに打ち込む姿、素直さなども心を動かされずにはいられません。一人ひとり違う輝きを放ち存在そのものが非常に貴重である子供ですが、大人として、親として接することのいかに難しいことでしょうか。自分自身の価値観が反映され、生き方すべてが問われる一大事業だと言っても過言ではありません。

子供はまさに無限の可能性を秘めています。それを親や周りの環境が、ダメにしてしまうこともあればうまく伸ばしてあげる要因となったりもします。現代は、社会の変化と共に子供を取り巻く環境が困難になってきていると感じられる度合いが年々増し、社会自体の在り方に展望が見い出せない時代です。人間の本質が生かされる社会が作られていくため、魂が清らかで将来を担っていく子供たちの教育は、私たちが長期的に取り組むべき最重要課題であることに間違いありません。



今月号 内容

- ❧ 編集部より2
- ❧ 英知の観点から 知識3
- ❧ 心を知る：マジヤズバとインジザーブ5
- ❧ Q&A：女性の権利について7
- ❧ 預言者ムハンマドを語る：
アッラーの承認にふさわしくあること 10
- ❧ 許しなさい、許される為に・・・ 12
- ❧ リサーレイヌールより：
21番目の光：イフラス 15
- ❧ 映画から考える：
『ネバーランド』 18
- ❧ 祈りのある毎日へ 20
- ❧ 生活の道しるべ 20
- ❧ 子供は鏡 21
- ❧ 歴史に見る子供の伝染病 22
- ❧ 子供の教育における適切なメッセージ 24
- ❧ 子供 27
- ❧ サラダ クレープ 27





学ぶこと、勉強すること、そして自らの才能を探求することは魂の最も重要な糧である。これらを得られないことは、治療の困難な、非常に厳しい状態の欠乏となる。

外国勢力が私達の祖国全土を荒らし、私達の知識や芸術、文化の宝庫を利用しているのに、私達が自分達の過去の知識や文化の源を探ることも学ぶこともせず、そして学ぶことができないのであれば、自分達の状態を嘆くべきであろう。

立派な我々の父祖が遺産として遺していった、そしてこんにち、世界が求め、学んでいるこれほどの知的・文学的作品に対し、民族全体で私達が示しているこの無関心さは、事実、理解できないものである。

完全に知らない、知っていても消化しきれしていない知識によって次世代の考えを鈍らせることは単に有害であるにとどまらない。同時にそれは裏切り行為とも見なされよう。

苦しみは最も透き通った、神の示唆の源である。

一つの民族の存在とその偉大さは、その民族の文化や芸術の深さに正比例する。世界各地にその知識や芸術による作品を広めた民族は、それらの作品の数だけ「私もいるのだ。」と存在を主張する。

人々の間での価値と名誉は、その知性と能力による。けちな、卑しい人でも金持ちになることはできる。しかし名誉を得ることはない。

人が学び身につけたことがどれほど多くなったとしても、決してその人が学び身につけていくことを妨げてはいけない。真の学者は、常に学び続ける上に、自分が知っていることは不十分だと見なす人たちの中から現われてきたのだ。

真実が語られ始めると、無知は怒り、偏屈はいらいらし、知は耳をすませ、聞く。無知な人全てに対し知識がないということとはできない。

真に無知である人とは、真実を感じるができない人のことであり、このような人は多くを知ったとしてもやはり無知なのだ。

生きることは、見て知ること、飲み食いすることではない。それは感じることである。知る者は有益であり、知らない者は害をもたらす。少しだけ知る者は、全く知らないものよりもより大きな害をもたらす。完全に知っている者や全く知らない者は、まれに騙されることはあっても人を騙すことはない。少しだけ知っている者が、しばしば人を騙すのである。

学問の名のもとに語られることのできる事柄は、理解されていると見なされる。語られることの出来ない事柄は、一部消化ができていないと見なされる。従って、学校で何も理解できない若者について考える時には、いくらかはその教師達の状況についても考慮する必要がある。

学校が、真の教師達の手で神殿のような状態にされる時まで、監獄がからになることを期待することは無駄である。

人は何であれ何かをするという意志を持った時には、まずそれに関する事柄をよく学ぶよう努めるべきである。それを行なうことが出来ると確信を持った後でも、その着手に誤りがあるといけない。

人はみな、自分の仕事、職業を十分によく知るべきであり、可能な限り自分の専門分野の範囲にとどまっておくべきである。なぜなら人は自分の専門分野以外では成功をおさめることができないかもしれないからである。だから医者には医者であり続けるべきであり、技術者は技術者であり続けるべきである。導師が医療行為を行なってはいけないし、医者は法律家であろうとして自分を苦しませるべきではない。





マジズバとインジザーブ (引き付けること、アッラーに引き付けられる感覚)¹

イスラーム神秘主義の用語において、ジャズバ(引き付けること)とは、アッラーに自身がしもべをアッラーに引き寄せること、その結果精、神が上昇する中で人間的な不完全さから清められること、そしてクルアーンで述べられているように、アッラーの属性や高尚な道徳が備わることの意味します。またアッラーの尊厳や唯一性の顕現を明確に感じ、見出すことも意味します。そうした顕現を理解することのできる清められた魂は、彼方の世界が源流となっている潮流に身を投げ入れ、有能な泳ぎ手のごとく、恐れも心配もなくアッラーに深く服従しながら、恍惚感の中を泳ぐのです。

ジャズバが、人の本質と結びついた神聖な力に引かれ、自身が創造された目的や、その人の真実で生得の天性に示された地点へと向かうことを意味するならば、インジザーブは人の魂に送られたこの招待を喜んで受け入れることを意味します。

ジャズバは非常に素晴らしいアッラーの恩恵であるため、普通の方法や原因では手に入れることができません。クルアーンで「これはアッラーの恩恵で心に叶う者にそれを授ける」(57:21)とあるように、ジャズバもそれを受け取る能力も、清らかな心を持つしもべにそれを授けるのはアッラー自身です。これが授けられることによって、過ぎ行きたった一瞬の間に、様々な出来事がつまった多くの時間の塊が含まれるようになります。また、アッラーに向かう一歩が天国の楽園に到達する可能性を有するようになります。そして一片の石炭をダイヤモンドに変えることのできる視線が備わります。「慈悲深きお方が引き寄せてく

ださるその一瞬は、人間やジンが善行によって獲得したアッラーへの近しさに等しい」と述べられているように、人の意志や力では到底行くことができないように思われる広大な距離もジャズバによって一瞬のうちに踏破し、アッラーに持ち上げられることによって高い山頂にも達することができるのです。

魂で信仰の神秘を味わい、アッラーに引き寄せられながら、イスラームと完全なる善行と献身を実践する人たちは、「ウワイスの道をたどる人々」と呼ばれます。なぜなら彼らは、アッラーご自身、もしくは預言者によって教えを受けているからです。言い換えるならば、彼らにとって人間の師や導き手は必要ありません。彼らはアッラーご自身によってアッラーに引き寄せられているのを感じるので、アッラーについての真理や顕現など彼らが見出すものについて驚嘆しながら、絶え間ない恍惚感のうちに生きているのです。

時に、ジャズバと日々の崇拜行為や禁欲との間には好循環が見られます。アッラーへの道を行く旅人は、崇拜行為や禁欲の度合いに応じてジャズバを授かり、また逆に、アッラーに引き寄せられるのを感じるほどに崇拜行為にいそしみ、禁欲的であろうとします。こうした人々がシャリーア(イスラーム法)にのっとって行動する限り、この好循環は続きます。もし預言者ムハンマド(彼に祝福と平安あれ)の光から離れるようなことがあれば、アッラーとの関係においてのんきな態度を取る様子が伺われ始め、宗教的な義務もおろそかにし始めるかもしれません。

まず何よりも、ジャズバは前もって与えられる能力であり、アッラーからの贈り物です。この贈り物な

¹ この文章が「Key Concepts in the Practice of Sufism」よりの訳です。

くては、道を行く旅人は禁欲を通じて、崇拜行為を通じて、そして自己浄化をもってしても、引き寄せられる感じを得ることはできません。さらにはアッラーの「愛する」という美名が発する光によってもたらされる、宇宙の表面でのジャズバとインジザーブの波を感じすることもできません。そうした気付きのない人には真の精神性についての知識はありません。

私が愛に引き寄せられていないのなら、師は構ってくれないでしょう

アッラーからの靈感を受け取っていないのなら、師は構ってくれないでしょう

時に起こることですが、このように引き付けられる信者はアッラーからもたらされる贈り物に圧倒されるがゆえに、かれの顕現以外のものは何であれ消え去り、この世や来世に関するあらゆる心配事も忘れ去られます。下の二行連句で述べられているような状態の中で、

私の天性は時化の高波に引き付けられるあまり

アッラーの豊かな恵みに呑み込まれるかのように感じるのだ

人の自我と創造のその他あらゆる部分は、神聖な、引き付けるお方に引き寄せられることによって酔いしれているように映ります。

すべてのものはアッラーの愛という美酒と、この愛に引き付けられることに酔いしれています。天上のものと天使も恍惚とし、天と地は恍惚とし、元素も植物も恍惚とし、動物も、人間も、あらゆる存在は恍惚感に浸っているのです。

ジャズバには二つの種類があります。一つは人の内部で感じられるもので、それが外側に現されることはありません。そうした人は、アッラーを愛し、アッラーの命令を順守することに大いなる満足と喜びを

感じます。また、より深い喜びの源に絶え間なく引き寄せられているのを感じます。次に、外側に現れる類のものがあります。それを感じる人は有頂天になった姿を表に現さずにはられません。途切れなく強まり続ける力でアッラーから引き寄せられるのを感じ、その人は非常に強い歓喜と大きな幸福感に包まれながら恍惚として生きるのです。

こうした度合いの精神的な高みへの上昇を知らない人の目には、常軌を逸していると映るでしょう。ここまで至った恍惚感について表現するには、アブドゥルアジズ・マジュディ・エフェンディの二行連句が非常に意義深いと思われまます。

ジャズバとよばれる狂気の種類があるが、それは真の勝利である

ジャズバによって、狂気は崇高で偉大な神秘に到達するのだ

ジャズバはいくつかの点で狂気のように見えますが、実際はかなり異なっています。例えば、ジャズバの波にもまれて回転し、恍惚感を味わっている者は、知覚の一部を失い、健全な推論やシャリーアに一致しない振る舞いをとって狂気の徴候を見せます。ほとんどの場合、この恍惚状態に至る人は、あらゆる感覚や知覚の力において、一般的な人の基準を上回っており、スナナの光に照らされ、理論やその他の才能、普通の人の感覚では到達することのできない世界を旅することができるほどです。それゆえ、そのような人が誰かの目に映ったとき、狂っていると思われるってしまうのです。

しかしながら、アッラーの助けを得ながらその力を他の感覚を用いて能力の範囲や知性・理論の標準的な力を超えて(精神的な世界を)旅することは、知性や理論が標準を下回ることで特徴付けられる精神病に由来する狂気の種類とは完全に異なっています。



Q: 女性の権利についてのあなたのお考えは?

A: これは非常に包括的な話題であり、ある種の観点から議論の余地を残しています。この類の基盤の上に私の考えをまとめるのは非常に難しいことですが、ある意味、我々は男女を分けることはしません。別の観点から、身体的、また心理的な差異が存在することも確かです。男女はコインの表裏と同じく、真実の二つの側面をなしているはずで、女性なくしての男性、男性なくしての女性、というのはありません。双方は一緒に創造されたのですから。アダム（アダム）は天国で、連れ合いがいないために辛い思いをしていました。後にハワワ（イブ）を見つけて、天国は本当の天国になったのです。男性と女性はいを補完しあうものなのです。

Q: この問題についてイスラーム的な視点からのアプローチは?

A: 我々の預言者やクルアーン、そしてクルアーンの教えは、男性と女性を別々の創造物というふうには捉えていません。ここで問題なのは、人々がこのことに両極端からの接近を試み、バランスを乱していることだと思われます。特定の点においては確かに相違が見られます。例えば、男性は大抵、肉体的により強靱で困難に対する耐性があるものですが、一方で女性は感情的な深みを備えており、愛情深さや繊細さ、自己犠牲の点で上を行きます。社会の中でそれぞれの性にふさわしい場所を探す一方で、我々はこれらの、そしてそれ以外の生得の相違に目を向けるべきです。アッラーは原子以下の粒子から人間に至るまですべてのものを、一致させる目的で対に創造されたのですから。

Q: 女性の役割についての例を挙げてください。

A: 慣習や反イスラーム的な伝統によってイスラームが「汚染」されていないムスリム社会の社会的状況の中では、ムスリム女性は日常生活において全面的な関与をみせています。例えば預言者の存命中やその後の数世紀間、西欧では女性が社会において何の地位も与えられておらず、女性が魂を持つか、悪魔なのか、はたまた人間なのか論議されていた頃、アーイシャ（預言者の妻の一人）は軍を率いたことがありました。彼女はまた、誰からも重きを置かれる宗教学者でもありました。女性はモスクで男性と一緒に礼拝を行っていました。モスクで老婦人が司法上の問題についてカリフに反対することができたぐらいです。

18世紀のオスマン朝時代でも、イギリス大使夫人が女性を高く讃え、ムスリムの家庭や社会における彼女達の役割を称賛とともに言及した例もあります。

Q: 女性が行政官になることはできますか?

A: 女性が行政官になれない理由は何もありません。実際、ハナフィー派の法学では、女性が裁判官になれると述べられています。女性にとっては、ある種の事柄について、同性の裁判官に対しての方が

より気楽に説明できるということもあるかもしれません。

Q：預言者は子どもをどのように見ていましたか？

A：預言者(彼に祝福と平安あれ)は自らの子どもや孫に愛情深く接するとともに、彼らを来世や善行に導くことも軽視しませんでした。彼は子どもや孫たちに微笑みかけ、抱擁し可愛がりでしたが、来世に関する事柄をおざなりにすることをよしとはしなかったのです。彼の究極的な目的は、彼らを来世に対して準備させることでした。

預言者(彼に祝福と平安あれ)の息子は全員が亡くなりました。コプト教徒の妻マーリヤから生まれた最後の息子であるイブラーヒームも、幼少の頃亡くなりました。使徒は息子が亡くなる前、非常に忙しい身にも関わらずしばしばその子を訪れていました。

イブラーヒームは乳母のもとで世話されていました。預言者(彼に祝福と平安あれ)は帰宅する前、彼を抱きしめ、キスし、そして愛撫していたものでした。イブラーヒームが亡くなると、預言者(彼に祝福と平安あれ)は再び彼を膝に乗せ、抱きしめ、そして今にも泣き出しそうになりながら悲しみを吐露しました。そのことに驚いた者もありましたが、預言者(彼に祝福と平安あれ)はこう応えました。「目からは涙が流れ、心は張り裂けそうになっているかもしれない。しかし我々はアッラーがお喜びになること以外は何も言わないのだ」そして彼は舌を指差して言いました。「アッラーはこれについて問われるだろう」と。

彼はマディーナに戻るといつも、ご自身が乗ってきた動物に子ども達を乗せてやるのでした。そのようなとき、使徒は自らの孫だけでなく、彼の家や近くに居合わせた子ども達をも抱擁していました。そうして子ども達の心を愛情によって獲得していたのです。彼はすべての子どもを愛していました。

Q：両親は子どもにどのように接するべきでしょうか。

A：この世に子どもを送り出した人々は、子ども達が天を超越した世界に達するよう育てる責任があります。体の健康に注意を払ってあげるのと同様に、精神的な生にも気を配ってあげてください。どうか、哀れみをもって、無力でいたいけな子ども達を救ってあげてください。彼らの生が無駄にならないようにしてあげてください。

すべての個人の将来は、幼少そして若者の時代に受けた印象や影響と密接に関わっています。子どもや若者は、彼らに備わる熱意がさらに高尚な感情で刺激されるような空気の中で育てられれば、丈夫な心を持ち、優れた道徳性や美德を発揮するようになります。

鏡のように輝き、カメラのようにすばやく記録する魂を持つ子どもにとっての最初の学び舎は家庭です。そして最初の教育者は母親です。それゆえ、子どもにとっての良い教育者となるよう母親たちが養成を受け、教育されることが一国の存在と安定にとって欠かせません。

もし両親が子ども達に働きかけ、彼ら自身の能力を発展させたり自分自身や社会にとって有益となるよう促せば、それは国家に堅固な新しい柱を提供することになります。反対に、子どもたちの人間的な感情を養ってあげなければ、それは社会に蠍を放つ結果となります。

社会の向上は、唯一若い世代を人間たる地位に押し上げることによつてのみ可能となります。悪者

の要素を取り除くことによってではありません。宗教、伝統、そして歴史的な自覚によって組成された種が国中にまかれないうが、新たな悪の要素が出現し、除去された悪に代わって増長するでしょう。

子どもは出来る限り、両親に従い敬意を表すべきです。両親は、子ども達の身体的な発達や健康に気を配ると同じくらい、彼らの道徳的・精神的教育にも重きを置くべきです。そして彼らを最も高潔な教師や指導者の手に委ねるべきです。子どもたちの道徳・精神面における訓練を怠る両親とはいかに無知で不注意なことか、そしてその怠慢を被り被害者となる子どもはどれだけ不幸なことでしょうか。

両親の権利に無神経で彼らに従わない子ども達は「人間性を失ったケダモノ」です。子どもの道徳的・精神的な福利を確保しない両親も、無慈悲で冷酷だと言えます。全ての中で最も残酷かつ無情なのは、子どもが人間的完成への道を見出した後に彼らの道徳的・精神的な発達を無力化させる両親です。

Q：若者についてはいかがですか？

A：一国の将来を予見したければ、その国の若者が受けている教育やしつけを分析することで正確にそれを行うことができます。

欲求はお菓子に似て、美德は少々塩気や酸味がある食事に似ています。若者が自由に選択できるとしたらどれを好むでしょうか。しかしそれには関わらず、我々は若者が美德の友人となり不道徳や下品さの敵となるよう育て上げなければなりません。

教育を通じて我々が若者に助けを差し伸べるまで、若者は環境の囚われとなっています。激しい情熱に突き動かされ、知識や理性からは遠く離れたところで、無目的に彷徨っているのです。若者たちは、教育によって過去と一体化し理にかなったやり方で未来のため準備がなされることによるのみ、国家の思考と感情にとって、真に価値ある若き代表となることができるのです。

社会がクリスタルの容器で、その社会に属する若者たちが容器に注がれる液体だと考えてみてください。液体は容器の形と色を呈することに注目してください。統制を推進しようとする悪意に満ちた人々は、真理ではなく彼らに従うよう若者に語りかけます。そうした人々は自らに問いかけることをしないのでしょうか。彼らも真実に従わないでいられるのでしょうか。

一国家の発展もしくは衰退は、若者に授けられる精神と自覚、しつけと教育にかかっています。若者を正しく育て上げた国家は常に進展の準備ができてい一方で、それを行わなかった国家にはたった一步を踏み出すことさえも不可能となります。

若者は力、強さ、そして知性の苗木です。相応に教育や訓練を受ければ、障害物を克服し、人々の心を啓蒙し世界に秩序を与えることを確約するような心を持った「英雄」となることができるのです。





アッラーの承認にふさわしくあること

アッラーは、その使徒に、次のように呼びかけられている。

「使徒よ、主からあなたにくだされた（全ての）ものを宣べ伝えなさい。あなたがそれをしないなら、かれの啓示を宣べ伝える使命は果たせないであろう。アッラーは、（危害をなす）人々からあなたを守護される。アッラーは決して不信心の民を導かれない」（食卓章5/67）

アッラーは、他のどの預言者にもこのような呼びかけはされていなかった。他の預言者たちへの呼びかけは、ただそれぞれの名前と共に行なわれる。しかし預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）に対しての呼びかけは、このような敬意を含んだ表現が使われたのである。

「使徒よ」という言葉によって、アッラーからの神意をもたらし、知らせを伝え、知らせを持っている人ということが示されている。このような形の呼びかけによってアッラーは預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）に特別な名誉を与えられていることを知らされると同時に、我々には、この預言者の名誉と価値を思い出させておられる。これを預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）の名誉の宣言と言うこともできる。そして預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）は、その名誉をもって、我々に与えるべき知らせを与えられるのである。つまりここであなた方と対話しているのは、アッラーが敬意を示され（表現が適当であれば）名前で「アハマドよ、ムハンマドよ、ムスタファヤよ、マフムードよ」と呼びかけるのではなく、「使徒よ」と呼びかけておられるお方なのである。つまり、感情や考え、心を生き返らせるメッセージをもって、人間たちの救済のために努められるよ使徒よ、と言われている。アッラーはムハンマドを光でできた渦巻きの頂点に高められ、そのお方に預言者として名誉を与えられ、御前で会話ができるほどにされたのである。このような表現でも明らかになるように、アッラーは預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）を御前に招かれ、そのお方と語られるのである。

学者たちの中に、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）がミーラージュ（昇天）において実際に会話したのだと言う者たちがいる。他の啓示が時には覆いの後ろから、それでもこのお方自身に与えられたのにたいして、ミーラージュではそれが直接出合う形で行なわれたのである*。そう、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）はそのような方なのである。アッラーは預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）を最高の段階にまで高められ、そのお方に言われる。「あなたは、私がおあなたに下した全てのものを人々に伝えなければならない。この仕事においては何であれあなたの障害になってはいけない。あなたは何かにこだわってそこで止まってしまってもいけない。恐怖や不安、障害、そして空腹や渇き、この世における地位、階級といったものがあなたを布教から遠ざけてはいけない」

* Ibn Kathir, Tafsir 7/424

事実、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）はどんな障害があってもそこでとどまってしまうことなく、一瞬たりとも休まねば御自身に与えられたこの使命を果たされたのである。預言者としての扉が開かれ、その任務を不足なく努められた。上昇の限界が示されたが、それをずっと下の方に残して、上昇されたのである。天使ジブリールはその限界に達した時、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）にこう言っている。「進みなさい、ムハンマドよ。これから先の道はあなたのもの、私は指の先ほどでもこれ以上前に進めば神の偉大さの光が私を焼き尽くしてしまう」

これは、限界への挑戦、そして超越ということである。この表現は、常に私にオーギュスト・コント（Auguste Comte 1798～1857）を思い起こさせる。フランスの哲学者であるコントは、実証主義を提唱した人たちの一人である。生涯、宗教を敵として生きた。なぜなら彼によれば、実証されないことは全て馬鹿げているからである。しかし、歴史書には彼に関する次のような出来事が述べられている。

ある時コントはアンダルシア（スペイン南部に15世紀まであったイスラーム国）の地に行き、ここでイスラーム芸術の作品を驚きをもって眺めていた。そしてイスラームについて知識を得るために、幾人かの者に尋ねた。それらの答えの中で、特に預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）が字の読み書きを知らなかったという点は彼を驚かせた。彼はそれを信じられず、ローマに行った時に9代ローマ法王に会った機会にそのことについて尋ねてみた。法王もそれが事実であると言い、この哲学者は次のように言わずにはいられなかった。「ムハンマドは神ではないが、人間でもない」

ブサイリーも次のように詠っている。

「学問が最後に到達する事実とは、ムハンマドは一人の人間であるが
アッラーが創造された全ての存在の内、最も優れた存在である」

つまり、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）はアミーナから生まれ、アブドゥラーの息子であり、アブドゥルムッタリブの孫である。そう、そのお方にも母があり父があり、物質的な存在でもあられる。しかし、ただ物質的な面のみでこのお方を語ることは不可能である。預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）は預言者という空で羽ばたく鳥のようであられ、我々の言及していることは全て、このお方の中から現れた卵の周辺で回る。預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）はミーラージュにおいて、大変な段階に到達されたのであり、我々はその足をどこに置かれたかということすら知ることができない。これは人間の理解や意識を超えたものであるからである。

アッラーは、御自身に近いところに置かれ、最も愛されたしもべに、布教という任務を負わされたのである。布教がいかに重要なことであるか、ここからもわかる。もし布教という任務を果たさなければ、預言者としての使命そのものをも果たさなかったということになるということを経験して彼に特に知らされてもいる。

それならば、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）のウンマである我々にとっても最も重要な任務は、やはり布教である。人間性というものを甦らせることは、預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）の息、そして彼を息づかせるものの息に触れることによつてのみ、可能であるということをおぼえておこう。



*許しなさい、許される為に・・・

問い：「最たる敵」とはどういう意味ですか？信仰の光に満たされた心に、怒りや憎悪、敵意といった感情が存在することは可能ですか？信者の徳において「許すこと」はどのような位置を占めるものですか？

答え：この教えの精神には、愛情があります。なぜならこの世界は一つの愛の詩として創造され、地上もその詩の韻客とされているからです。自然という書物をよく読む人は、いつでも愛の旋律を聞いているのです。被造物を胸に抱くこの愛情は、人間の結びつきをも、その色に染めます。崇高なその本質を見出し、その本質の部分に与えられている愛情の種に気づいた人、そして創造主との結びつきを感じることのできる人は、他の人々をもアッラーの芸術作品と見なし、周囲に愛情を抱き、皆を愛するようになるのです。さらには、全ての被造物をその慈しみの中に抱くようになるのです。

信仰の光によって輝かされていない不幸な心は、怒りや憎悪、敵意といった感情に襲われます。師が言っているように、憎悪の闇にいる人は、世界を葬儀場のように、被造物をも互いに関係のない敵であると見なします。彼は全てが互いに敵対しあっていると考え、自らにも様々な敵がいると重い、戦場で、敵に囲まれているかのように不安のうちに生き、ほとんど全てのものに対し警戒を怠らぬにいます。だから信仰を得られずにいる人は多くの場合、被害妄想を抱くようにもなります。内面にある不安や恐れのため、親しげでない振る舞いをとり、その態度には表裏が出るようになります。心の中では憎悪や敵意が煮え立っているにもかかわらず、愛の勇者のように振舞うのです。自分の言葉に自分でも信じていないにもかかわらず、よいこと、助け合うこと、自分を改めることについてしばしば言及し、その口から蜜がたれるほどになります。その言葉の信用性を増そうと、アッラーを自分の誠実さの証人として示そうとします。クルアーンは、このような偽信者について、

「人びとの中には、この世の生活に関する言葉で、あなたの目をくらませる者がある。そしてかれらは、自分の胸に抱くことの証人としてアッラーを呼ぶ。だがこのような人間こそ最も議論好きな敵である。」(雌牛章第204節)と述べているのです。

最も無慈悲な敵

「最たる敵」とは、その心に愛情や慈しみのかけらすら存在しない「最も無慈悲な敵」を意味しま

*昔々ユーフラテス川のほとりに、民衆から慕われたスルタンがいました。壊れたつぼで水を汲み、愛するスルタンに捧げた人がいました。もともと水源そのものがスルタンの所有だったのですが、このこわれた壺では、なかなか水をすくい上げることができません。それでも、一生懸命水を汲もうとした貧しい人のお話が伝えられています。「こわれた壺」はその話に因んでいます。M.F.ギュレン師が語っている言葉を文字にした文章の訳です。(HPからの転載)

す。クルアーンのこの言葉は同じ性質を持っている多神教徒達をも対象とするものですが、解釈書はこの章句がサキーフ族のアフナス・ビン・シュライクについて下されたものであることを伝えています。この偽信者は預言者ムハンマドのもとを訪れ、自分がムスリムであることを伝えます。そして気の向くままにしゃべり、いくつもの誓いをたてます。しかし預言者のおそばから離れるや否や、イスラーム教徒の所有する農場を訪れ、作物を焼き、家畜を壊滅状態に陥れます。信者の作物や家畜に対してすら我慢が出来ない、全てを焼き払いだめにしたアフナスやその同類の人々についてクルアーンは彼らが敵意において激しい状態に達していること、許しや慈しみからかけ離れた存在であることをあきらかにしているのです。

神の存在の否定という道にそれてしまった人の多くは、心も非常にかたくなになっているので、彼らが誰かを許すということはありません。彼らはその世界を怒りや憎悪、そして報復の上に形成しています。針先ほどのものであっても、過ちがあれば必ず気づき、許しを求められても決してそれを認めず、常に怒りで満たされています。彼らはあたかも完全に自我そのものとなっているのです。自己中心主義の精神に逃げ込んでいるのです。従ってあらゆる問題において自分達の都合のいい方向にことを運ばせようと詩、自分達だけを真の意味で愛し、他の人々に対する憎悪や怒りで満たされた生涯を送るのです。憎悪や敵意といった特質は、真の意味で、この信仰の欠如を顕すものなのです。

また同じような、不足している状態である人々がいて、彼らは宗教的な見かけを持ったいくつかの組織に参加しています。しかし神の存在を正しく認識することも、首尾一貫した形で預言者を理解することも、正しい来世への信仰を持つこともできないのです。それに対しては瞑想や祭りに慰めを見出します。週のうち何日か、崇拝行為を行なえる場所に集まり、音楽を聴き、ストレスから逃れようとするのです。

さらに、最近しばしば見かけるものとして、一部のパフォーマーが宗教の名のもとに語る際、一絶対にありえない誤ったことではあるけれどもアッラーを自分達の勘定にあわせて語らせ、メシアの欲望や欲求を話題にしていること、そして誤った考えによってコメントを述べ、宗教を、人々を影響下に置くための媒介として利用していることが多くあります。時には彼らと共に笑い、楽しみ、時にはその影響下に入ってしまう人は、その実践を行なう際にはトランス状態になったような態度をとり、自らを楽にしようとするのです。このようにして、楽しむこと、いい時間を過ごすことから慰めを得ようとしています。こういう形で、宗教に近いように見せている人々の魂の中にはしばしば、彼らの仲間ではない人への怒りや憎悪、苛立ちが存在するのです。自分達だけを見せつけ、自分達のことばかり話し、全てを自分達に結びつけようとする魂の状態が見受けられるのです。

信者における、不信心の性質

そう、怒りや憎悪、敵意といった感情は多くの場合、信仰を得ることのできなかった人々において見出すこと、被造物への愛着や愛情、全てを抱きしめ全てを心に留め、許し、怒りをとくとといった特質は主に信者において見出すことに私達は慣れていきます。しかし、時にはこれらが入れ替わることがあるので

す。教えに対する憎悪の中にいる人が、愛情や寛容の精神で満たされているのを目にすることがあります。彼らも被造物に対して深い愛着を抱き、皆に愛情を持って接し、友情の橋をかけようと努力しているのです。他方で、予想もしなかった、考えもしなかった形で、一部の信者が怒りや憎悪、敵意のうちに日々を過ごしているのに気づくこともあります。

ベディウツザマン師は、全てのムスリムのあらゆる性質がムスリムとしてふさわしいものであることが求められるのにもかかわらず、それはいつでも実現するわけではないこと、同様に教えへの憎悪を抱く人の性質もまた、憎悪によって形成されている必要はないのだということを語っています。そして時には信者に不信心の性質が見られるように、不信心者にも時には信者の特質が見られることを述べています。

例えば陰口や嘘、中傷が不信心者の行動ですが、残念なことに信者の一部もこの醜い罪を犯しているのです。動揺に、怒り、憎悪、報復といった感情、そして敵意もまた、不信心者に属する特質であり、信者には存在すべきではないのです。しかし信者の一部はこのシャイターンの罠にはまり込んでいるのです。この逆もあり得ます。すなわち、信仰を味わっていない人々の中にも、他者に対して敬意を払い、うそをつくことも誰かの中傷をすることも不遜に振舞うこともしない人々がいるのです。被造物に対し深い愛着を抱きます。アッラーや預言者、来世での勘定についてしっかりした知識はないものの、知っている範囲であらゆる被造物を「創造主の芸術」と見なし、驚きの中にいます。創造に関する章句をよく読み、宇宙という書物を理解しようと努力し、真剣な探求心で事象を粉碎せんばかりなのです。これらはそれぞれ信者の特質であり、これらの特質は不信心者にあつたとしてもやはり美しいものであり、認められます。

アッラーは人々の特性によって判断をなされるのです。従ってこういった素晴らしい特質を持っている人は、不信心者であつたとしても、競争相手達に対して一時的ではあれ勝利を収め、その仕事において成功することができます。これを性質が性質に勝利する、と表現することもできます。つまり信者の特質は不信心者の特質に勝っているのです。要するに、信者において不信心者の特質を見出すこと、不信心者において信者の特質を見出すことはいつでも起こりえることです。

.....つづく





21 番目の光：イフラス

「そして論争して意気をくじかれ、力を失ってはならない。」(戦利品章第 46 節)

「各礼拝を、特に中間の礼拝を謹厳に守れ、敬虔にアッラーの御前に立て」(雌牛章第 238 節)

「本当にそれ(魂)を清める者は成功し、それを汚す者は滅びる。」(太陽章第 9-10 節)

「また僅かな代償で、わが印を売ってはならない。」(雌牛章第 4 1 節)

来世における私の兄弟たちよ。クルアーンの奉仕の仲間たちよ。あなたたちは認識していなければならない。

この世において、特に来世のための奉仕において、最も重要な基盤であり、最大の力であり、最も受け入れられる仲裁者であり、最も堅固なよりどころであり、真実への最短の道のりであり、最も受け入れられる精神的ドゥアーであり、最も奇跡に満ちた成功への手段であり、最高の状態であり、最も純粋な、しもべとしての崇拜行為が、イフラスである。

イフラスには、上記のような光と力がある。この深刻な時代において、強力な敵や激しい抑圧に直面し、積極的に教えを変化させようとする動きや逸脱の中にあつて、私たちは無力で少数派で困窮状態にある。それにもかかわらず、非常に重要で普遍的な、信仰への聖なる義務、クルアーンへの奉仕が、恵みの神によって私たちに与えられたのだ。当然、私たちは誰よりも、渾身の力でイフラスを獲得する必要がある。イフラスを自分自身に浸透させる必要がある。そうでなければ、私たちがこれまで、神聖な奉仕によって得てきたものは、その一部が失われることとなる。持続しないものとなる。そして私たちはその責任を問われる。

「また僅かな代償で、わが印を売ってはならない。」(雌牛章第 4 1 節) この章に含まれるアッラーからの強い禁止の対象となり、永遠の幸福を害する、無意味な、不必要な、有害な、また嘆かわしく自己本位な、些少な、偽善的な感情や、取るに足らない利益のためにイフラスを破壊することは、共に奉仕する兄弟たち全てへの権利の侵害であり、クルアーンへの奉仕に対する非礼であり、信仰の真実の神性さに対する不遜である。

兄弟たちよ。重要な、尊い行為の前には、多くの障害がある。シャイターンはこの活動を助ける人々に争いをしかけてくる。これらの障害やシャイターンに対し、イフラスの力に頼らなければならない

い。あなた方は、蛇やサソリを避けるのと同じように、イフラースを害するものを避けなければならない。ユースフさま（彼の上に平安あれ）の「主が慈悲をかけた以外の（人間の）魂は悪に傾きやすいのです。」（ユースフ章第 53 節）という言葉に従い、人に悪をそそのかす我欲を信頼しないようにする必要がある。エゴや我欲があなた方を騙すことのないように。イフラースを獲得し、それを保つために、そして障害となるものを取り除くために、以下の規則があなた方への道しるべとなるだろう。

第 1 の規則

あなた方の行動は、アッラーのご満悦のためでなければならない。

アッラーがお慶びになられるなら、世界中が腹を立てたととしてもそれは重要なことではない。アッラーが承認されるのなら、全ての人が拒否したとしても何の影響もない。アッラーが慶ばれ、承認されたなら、望まれるなら、必要と見なされるなら、あなた方が要求していなかったとしても、人々に対しそれを承認させられ、同意させられる。だから、この活動においてはただアッラーのご承認のみを目標としなければならない。

第 2 の規則

このクルアーンへの奉仕を行っている兄弟たちを批判してはいけない。活動を示すことによって彼らに妬みを起させてはならない。

人の手は、もう片方の手と競うことはない。片方の目がもう片方の目を批判することもない。舌が耳を非難することもない。心臓は魂の誤りを見出すこともない。各々は、互いの不足を補い合い、過ちを覆い隠し、ニーズがあれば援助する。それぞれの任務をも援助しあう。そうでなければその人の命が消されるであろう。彼の精神は逃げ去り、彼の肉体も四散する。

同様に、工場の歯車は、お互いと競い合わない。互いを抜かしあうことも、互いを制圧することもない。お互いの欠点を見つけて批判したり、熱意をそいでやる気を失わせたりすることもない。能力の限りを尽くして、全体の目的を達成するために助け合う。真の団結、真の統一のうちに、それらが創造された目的の為に進む。ほんのわずかであれ攻撃や制圧が行なわれたなら、それは工場を混乱に投げ入れ、稼働させなくなる。工場主も、その工場全体を破壊し、処分するだろう。

『光の書簡集』を学ぶ人々、クルアーンへ奉仕する人々よ。あなた方と私たちは、完成された人間という名に値する、集合体を構成する単位なのだ。私たちは、永遠の生における永遠の幸福をもたらす工場の歯車のようなのだ。救済の岸辺に預言者ムハンマド（彼に祝福と平安あれ）のウンマを運ぶ主のボートで働く係のようなものなのだ。4人の力を 1111 人の力に変えるイフラースの神秘を得て、真に団結し、一致協力することが必要なのは当然である。

そう、3つのアリの字がそれぞれバラバラであれば、それらは計3の力にしかない。しかしそれらが団結するなら、数の神秘を通して、111（百十一）になるのだ。4つの4がそれぞれ別々にあれば、それは全部で16にしかない。しかし、兄弟愛の神秘と目標への一致、任務における協力によって、これらが一体となって一つのライン上に並ぶなら、その時それは4444（四千四百四十四）の力と価値を持つのだ。真のイブリースの神秘によって、16人の献身的な兄弟たちの精神的な力と価値は4000以上になるということを、歴史上の多くの出来事が証明している。

この神秘には、次のような事実が秘められている。

真の、心からの一致、協力によって、人はそれぞれが他の兄弟たちの目によっても見て、耳によっても聞くことになるのだ。10人の真に結びついた人々は、それぞれが20の目で物を見、10の知恵で考え、20の耳で聞き、20の手で仕事をする。こういった形で、精神的価値と強さが生じているのである。





『ネバーランド』

父親を亡くし、重い病の母親を持つ少年が、とうに失ってしまった希望や幸な世界の存在というものを、誰がどのようにすれば取り戻してあげることができるのでしょうか。怒りや悲しみを心にしまい込んでしまうような子供は、オモチャを取り上げられただけですら悲しむのに、ましてや両親あるいはその他の愛する者たちが居なくなってしまうたら、どのような反応をするのでしょうか。ご存知のように病院の精神科は子供の患者で満杯ですし、成人患者の発病の原因も、彼らが子供時代に経験したトラウマ体験によるものです。ではどんな治療法があるのでしょうか。

2004年に製作され、世界中で好評を博した映画『ネバーランド』は、実話をもとに作られた映画で、100年以上も子供達に愛され続けている「ピーターパン」のおとぎ話が、誕生したいきさつの物語です。バリ（ジョニー・デップ）はイギリスの厳しく窮屈な規則に縛られた貴族階級の出身ではありませんが、風変わりな劇作家でもありました。夢見る心を失っていない、子供がそのまま大人になったような人だったのです。しかしながら、最新作があまり成功しなかったため、より良い作品を考え出そうと、新たなインスピレーションを求め始めました。そのために向かった先の公園で、四人の男の子の兄弟と、未亡人の母（ケイト・ウィンスレット）からなるデイヴィーズ家と知り合います。この映画は、子供特有の喜びや熱狂を失ってしまった子供達に、彼らの中の子供らしさや友情を取り戻した大人の物語と言えます。

バリは公園で初めて彼らと会った時、飼い犬をクマ、自分をその調教師として紹介し、そう思い込もうとして想像してみれば、本当にサーカスでダンスをするクマと調教師に見えるんだということを彼らに証明してみせたのです。そして子供たちと、見た事もないアフリカ人やインディアンや海賊たちがそこにいるかのように空想するゲームをしました。四人の兄弟の一人ピーターは、特に他人に対して心を閉ざしていて「人生がどんなに辛いか知ってるのに、こんなバカなゲームをできるもんか」という態度です。バリは子供達に、信頼し合おうことや、兄弟愛や、愛の強さというものをもう一度気づかせ、これらの価値によって繋がり合うことの必要性を思い出させようとしてしました。ついには、一番小さく、足の遅い兄弟の一人が、うまく飛ばない凧を飛ばす事すら少しも難しい事ではなくなりました。つまり皆が信じさえすればいいのです。一人の前向きな気持が周りの人にも影響するのです。望みさえすれば、どんなに困難な時ですら、天井にコインを貼付ける競争をすることだってできるのです。人生の力強さや美しさ、楽しさという恵みを消し去ることはできないのです。誰にでも到達することができる「ネバーランド」は確実にあるのです。

「人格の半分を形成されている子供達は、ただ天国の存在を知るだけで、彼らには泣く程恐ろしいように見える死にも堪える事ができ、その華奢でか弱い身体に精神的な力も持て、また些細な事でも泣いてし

まうような弱い性質の魂であっても、あの天国に希望を見出せば、幸せに生きることができるのです。たとえば、天国についてこう言うでしょう、『僕の弟や友達が死んだ、天国の鳥になったんだ。天国を飛びまわって、僕たちより幸せに生きてるんだ』そうでなければ、自分と同じような子供たちや大人の死を常に弱く哀れな子供達が目にするのは、脆さと精神力を一つにしても、目で見たと共に精神、心、意識などの感情すべてが一つになってさらに涙を流させるか、あるいはすべてを台無しにするか、不幸な獣になってしまうかもしれないのです・・・」⁴

そうです。「ネバーランド」とはバリが、全ての子供たちに「天国」というものをイメージさせようとしたものなのではないでしょうか？「さあ子供たち、そして心の中の子供が傷ついている大人たち！絶望してはいけません！絶対に辿り着ける、出会うことのできるもっと美しい場所があるんですから」

監督：マーク・フォスター

出演：ジョニー・デップ、ケイト・ウィンスレット、ジュリー・クリスティー、ダスティン・ホフマン

脚本：ダヴィッド・マギー

製作年：2004年

製作国：イギリス＝アメリカ



⁴ リサレイ ヌール シリーズ、10 番目の言葉より



ドゥア（祈り）のある毎日へ

恩恵、歓待がすばらしいお方

ふるまいが愛情細やかなお方

めぐみが悠久の時を越え続くお方

恩恵が永遠なるお方

御言葉が真実なるお方

約束に誠実なるお方

赦しがこの上なきお方

罰が公正なるお方

かれへの想いがこころよく優しく感じられるお方 かれへの親密さが味わい深く感じられるお方

あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、

あなたの他に真の神は存在しません。私達を地獄の炎からお助け下さい。⁵



生活の道しるべ

「生まれてくる者は本来の姿をもって生れて来る。しかし両親が子供をユダヤ教徒にしたり、キリスト教徒にしたりするのである。たとえば雌らくだが子供を生んだとしたらその子に手足の欠陥がありますか？それはあなた方が傷つけるまでは正常です。すると人々が”アッラーの使徒よ、それなら小さくて死んだ者はどうなるのですか？”と言った。そこで彼は次のように言った。アッラーだけが彼らが行ったであろうことをよくご存知だ。」



「。「ムスリムが不在中の同胞のため加護を祈った場合、天使は必ずや”同じくあなたにも加護が下されるだろう”と告げるであろう」」

⁵ジャウシャン・カビール（偉大なる鎖帷子、アッラーの美しい御名と属性を知らせるお祈り）には、祈願、唱念、救いを望むことが記されています。 ジャウシャン・カビールのアラビア語/日本語訳オーディオ CD・ROM またはプラスチックカバー本は出ています。詳細は：<http://www.isuramu.com/shopping>



最近、三歳を迎えた娘とぶつかることが多くなったな、と感じています。自我の発達とともに自己主張も強くなる時期でもありますが、それよりも、まるで自分を見ているかのような言動をとったりすることに、びっくりさせられることがあります。特に自分の欠点を鏡で見ているような気分になるので、私としては反省が先にくるよりも、目をそらしたいというのが正直な気持ちです。

「子供は全てフィトラ（本然の姿）を持って生まれ来ない者はない。」というハディースは、子供が本然の姿、つまりイスラーム教徒として生まれてくるという意味をもちます。そして、このハディースは、その後両親が他の宗教になってしまう、と続きます。我が家の場合、ムスリム同士に生まれた子供達ではあるものの、フィトラを継続して持ち続けるために、私達が正しい精神を持ったムスリムとして、人間として育てる責任を私達が担っているといえます。つまり、ムスリムとして生きるとしても、アッラーから頂いたムスリムとしての精神の美しさを多くは両親の影響によってどんどんと失わせていく、という別の側面での意味も考えれば、なんと責任は大きいのでしょうか。



子供を観察していると、本当にアッラーの英知が込められているのを感じます。出生時からの肉体や情緒的な成長はアッラーが全てを養育されるお方であることを証明しています。また、子供は色眼鏡で人々や物事を見ようとしません。相手の身なりやバックグラウンド、事情などで判断するのではなく、欲求や感情を本当に素直にさらけ出します。私達大人は知性が発達している分、欲求や感情に対しては理性も働きます。しかし、先入観や自分自身の偏った感覚に囚われすぎて、またそれに気づきもせずに、子供のような純粹さや精神の美しさを失ってきました。

時々子育てに行き詰まってイライラする時、子供の寝顔を見て、「この子は悪くないのにな。」とホロリとくることがあります。私自身の感情や事情によって、思い通りにならないと怒り子供が犠牲になっていることを反省しないといけません。子供はアッラーから頂いたものにも関わらず、彼らの中のすばらしく美しい輝きをどんどんと私が失わせてしまっていることに、どれだけアッラーに許しを請えばいいのでしょうか。

子供は本当に大人をよく見えています。私自身が気づかない所まで娘は真似をしたりします。小さい体にも関わらず、一日一日色々な事を吸収していく能力はアッラーの印でもあります。アッラーの印を私の言動によって間違った方向へ成長させていることに、自分が目をそらさずに自分自身の性格や未熟さに向き合っていないといけないと思いました。

私達が育てる子供達が、何十年後の社会を作っていきます。周囲に無関心でいることに慣れた今の日本では、まるで自分達には関係のない遠い世界の話のようです。けれども、ムスリムとして生き、ウンマを思うと、このような無関心が未来の脅威になります。ここまで混沌とした現代では、やはりイスラームの生き方がよい結果をもたらすことは否めません。私達大人がまず子供達のお手本になれるよう願います。



子供時代に問題となる最も重大な病気は、各種の伝染病である。この分野において最初の臨床報告を行い、治療について言及した最初の医師はイスラーム教徒である。子供時代の伝染病のひとつである百日咳を定義したのもイスラーム教徒の意思である。

医師ムハンマド・フサインはその作品で、百日咳を完全な形で描写している。重要な伝染病のひとつである脾脱疽について最初に定義しているのもイブニ・シナーである。この分野を最初に言及している人々の中の一人はアリー・イブン・アッパースである。猩紅熱を最初に定義した医師はラジーである。この分野で彼について二番目に言及を行なったのもイブニ・シナーである。また彼は肺結核を様々な段階に分け、同時にこの病気が伝染性であることをも指摘している。イブニ・シナーが公式に名前を出している作品においては、リンパ節結核についての記録が注意をひく。耳の後ろ、わきの下、そして大腿部の結核について言及されている。イブン・ズフルも肺結核の伝染性を指摘している。ハジュ・パシャも後に結核について別の観点から言及を残している。アッパース・ワシムが結核の伝染性を指摘していることも、医学の歴史の観点から評価に値する。

ラジーの最も注目されるべき点は、はしかに関する彼の著作である。歴史上はしかについて最も完成された定義を行なっている医師がラジーなのである。その道をたどる第二の医師がイブニ・シナーである。この分野での著名な人物としてはアブー・サヒー・イブン・ヤフヤーの名を見ることが出来る。西暦1000年に死去した彼にも、はしかに関する著作がある。さらに、イブン・アル・ジャッサールもその名を挙げることができよう。西洋ではアルギザルとして知られている。彼は1009年に世を去っている。「ザアドアルムサーフィル」というその作品は、コンスタンティヌス・アフリカヌスによってラテン語に翻訳されている。この作品は1749年、アムステルダムでセント・バーナードによって出版されている。イブン・アル・ジャッサールのこの作品でははしかについて多くのページが割かれている。

イブニ・イスハックは14世紀前のアラビアで、はしかや天然痘について分析を行なっている。この分析はエルマルルの解釈本でも目にすることができる。天然痘とはしかの区別を行なったのもラジーである。天然痘がそれ独自の論文で取り上げられているのだ。はしかについては、15世紀、著者不明の「外科の書」という作品、そしてアリー・ビン・ウスマーンの「治療の書」という作品でも取り上げられている。17世紀には天然痘とはしかについてシャーバン・シファールがその「小児のための予防措置」という本の第6節で言及している。その本の第7節ではコレラやペストが取り上げられている。

伝染性の病気の臨床描写を行なっている医師の一人にシェラーフェッディン・サブンジョオールがいる。15世紀に生きたこの医師は、「外科」という本で、丹毒について次のように解説している。「この病気の原因は、とても小さなうじである。この病気の症候はふくらはぎに現われ、赤くなり、熱を持ち、疼痛を伴う。高い熱を発生し、赤くなっていたところが腫れ、後には草の根のように腫れた血管が見えるようになる。」

と述べ、丹毒を医学的に説明している。同時に丹毒の要因である連鎖球菌をも示している。

伝染性の病気において最も重要なポイントは、伝染を予防することである。この点において一番重要なことは、その病気が伝染性であることの認識である。歴史上多くの学者達がこの件について考えを進めてきた。

例えば、イブニ・シナーはハンセン病、疥癬、天然痘、ペスト、そして炎症を起こした傷口が伝染性であること、伝染病が人口の多い集団でよりよく見られるものであることを述べている。イブニ・ハティーブもまた、ペストが伝染性の病気であることを指摘している。伝染性について考えを進めると同時に、見出した事実を実生活で素早く応用することも大切である。例えば歴史上、病院では熱を持ち、伝染性の病気にかかっている人のための別病棟が備えられてきた。伝染性、という概念は、預言者ムハンマド(彼に祝福と平安あれ)が道を示されることによって、人々の注意をひくものとなった。例えば預言者ムハンマド(彼に祝福と平安あれ)は、隔離という概念を導入された。病気や伝染に対する預言者ムハンマド(彼に祝福と平安あれ)の予防策を見てみると、例えばくしゃみをする時は口を押さえ、それによって周囲に感染させることを防ぐことを勧められていたことが見出される。また「誰かの痰が出た場合は、他の信者の肌や服にそれがつくことのないよう、その者はその場を出すべきである。」という言葉も、教訓を含むものである。また「どこかでペストが発生していることを聞いた場合は、その場所には行ってはいけない。また自分がいる土地でペストが発生していることを知った場合は、その場所を動いてはいけない。」とされていること、狂犬病のような病気を防ぐために野良犬の捕獲を命じられたことなどからは、崇高なる使徒が伝染病の予防という観点で私達の模範となっておられたことが明らかとなる。

病気の予防の為に、飲み物や食べ物が清潔であることも必要である。クルアーンでは「人びとよ、地上にあるものの中良い合法的なものを食べて、悪魔の歩みに従ってはならない。」(雌牛章第168節)

「信仰する者よ、われがあなたがたに与えた良いものを食べなさい。」(雌牛章第172節)

と命じている。また水の清潔さについて、預言者ムハンマド(彼に祝福と平安あれ)は、「水を入れた容器、食べ物を入れた容器の上を覆いなさい。」「ひびの入った容器から水を飲んではいけない。」と命じておられる。





人の学ぶプロセスは、生まれた瞬間から始まっています。自らの体、器官、そして周囲や世界を知り始めた人間は、アッラーの与えられた能力に応じて、学んだことを実践しつつ、自らを成長させます。聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚といった感覚のおかげで、彼らが学んだことは日々増えて行きます。周囲からもたらされる刺激やメッセージも、学ぶこと、潜意識を養うこと、そして人生を知ることを助ける要素となります。不十分な刺激しか受けていない子供の知的、精神的発達が停滞してしまうように、不必要な、過度な刺激を受けている子供の発達にも問題が生じることがあります。子供達の最初の3年間で、もっともはやく発達するのが精神システムであることを認識すること、母の胎内にいる時から肯定的なメッセージを与え、その発育を助けることが必要なのです。

聴覚によって得られたメッセージは、子供の発達や教育において重要な位置を占めるものです。十分な、適切なメッセージを受け取った子供達はその発達も肯定的なものとなるでしょう。赤ちゃんが、胎内にいる時から始まっていた聞くという過程のおかげで母の声を区別すること、そして母親の声が子供にとって心地よさをもたらすものであることはよく知られた事実です。母親が歌う子守歌は赤ちゃんに安らいだ眠りをもたらす一方、騒音や不適切な環境は赤ちゃんの機嫌を悪くします。赤ちゃんが特に最初の3年間に騒音にさらされることは、その神経システムによく影響をもたらします。残念なことに一部の父母は、子供達の部屋にラジオやテレビといったものを置き、子供達がずっとそれらを聞き続けなければいけないような環境を作り出します。実際には赤ちゃんにとって最良の発達は、彼らが受け入れることのできる、特にその年齢にふさわしい形で聴覚への刺激を受けることなのです。また逆に子供のそばで長い期間話がなされないことも、言葉の発達を不十分なものとします。子供達の潜意識をきれいな声やメッセージによって支えなければならないのです。母親と父親の間で交わされる、きれいなトーンを持った会話、役に立つ話題についてのおしゃべり、読まれる美しい詩、家の中で聞かれるクルアーンの声、モスクから流れてくるアザーン（礼拝前の呼びかけ）の声、歌ってもらっている子守歌などは、子供達が音声として適切な刺激を受けることを助けます。

視覚によって得られたメッセージも、子供の発達において非常に重要です。人は、自分自身を、様々な物を、自然を、見て触り試すことによって認識していきます。物を見るという特性は誕生と共に始まりますが、それが成熟するのは6ヶ月目に入ってからです。赤ちゃんは、発達過程において見たもの全てを学ぼうとします。見たものは潜意識にも蓄えられます。母親や父親は子供達のためによい振舞いによって模範となる必要があります。子供達が家庭内で、両親の振舞いに注意を払っていることは周知の事実で

す。助け合い、献身、寛容、勤勉、責任感、正しさ、思いやり深さといったものが家庭内で実践されていると、子供達はそれらをより簡単に理解し、把握することができるのです。両親の礼拝しているところ、本を読むところ、働くところ、客をもてなすところを子供が目にするのは、子供達がそういった行動に注意を向けることがなかったとしても、それらが潜在意識において定着することの助けにはなるでしょう。けんかや口論、否定的な言葉の応酬は、子供の発達にマイナスの影響を与えるでしょう。

人の潜在意識において超コミュニケーションを媒介として与えられるメッセージは、より影響力を持つことが知られています。例えば、何らかの製品のコマーシャルでは、その製品の品質よりもそれを使う人々の笑顔や幸せそうな様子がより影響を与えるのです。なぜならそれによって「あなたもこの製品を使えば幸福になりますよ。」というメッセージが送られているからです。子供達がよい環境で育つことは、間接的にいくつかの振舞いを模範とすることを助けます。要するに、私達が子供達に口で説明して教えようとしたことは、彼らが自分で見て学んだことに比べるとほんのわずかの価値しかもたないのです。学習過程において最もよく用いられる手段が、見て学ぶことなのです。この観点からも、子供達の発達や魂の健全さに有益な刺激を与える必要があります。両親は、否定的なメッセージを過度に与えられた子供達を導くのに苦労するようになります。なぜなら私達が口で説明することは、彼らが目で見て学ぶことに比べてあまり影響を及ぼさないものであるからです。

私達が暮らす場所柄も、しつけや教育の観点から非常に重要です。子供達の学校を選ぶ際に注意深くあることは有益でしょう。私達がなしえる最良のことは、よい環境を持った学校を選び、子供達が目で見て実践して肯定的な影響のもとに潜在意識を保つことを助けることです。教師が態度や行動において模範となることは、性格へのしつけにおいて必要不可欠な鉄則です。生徒達が学校環境の中で正しく均整のとれた刺激を受け取ることは、その学習を支えることにもなります。子供達は物理や数学といった複雑な問題を学ばなかったとしても、彼らの性質の発達は必ずサポートされるべきです。それを受けなかった子供は、非常に進んだ知識を学んでいたとしても、自分や他者の役に立つことはできないでしょう。性質へのしつけにおいても、教師の身だしなみや話し方、出来事に対する反応や行動などが、彼らが口で説明することよりもより影響を与えるでしょう。

メディアが子供達に与える影響については議論の余地もありません。暴力、恐怖、道徳のゆがみ、不適切な行動などはメディアによるネガティブな影響力を反映するものです。人生の最初の数年においては、テレビのネガティブな影響力はまた異なった意味を持ちます。赤ちゃんがテレビの前で長く過ごすことは、言葉の遅れや社会への不適合をもたらすことが知られています。こうした形でテレビから過度に受ける視覚や聴覚への刺激は、子供達の発達に悪影響を及ぼします。一部の親は、子供達にテレビを見せながら食事をさせ、体を成長させようとしながら、彼らの人生に否定的な影響を与える刺激を受けることを助けてしまっているのです。子供の発達において、特に赤ちゃん時代においては、テレビやインターネットから受け取られる不適切な刺激に注意を払うべきなのです。その時期には、テレビ画面に映るものより

も、母親や父親との交わりや彼らの愛情、話、優しく撫でられることや抱きしめられること、遊んでもらうこと、そして人々と影響を与えあうことを必要としている乳幼児は、テレビ画面の前に取り残された時には、人間らしい特質を発達させることが難しくなるでしょう。育ち盛りの脳は、あらゆる映像、音に影響を受けるということを忘れないでください。わずかであったとしても、あるいは短時間であったとしても、継続的に繰り返される刺激はそのうち子供達を変えてしまうでしょう。

触覚、味覚、臭覚によって得られた刺激によっても、子供達に肯定的影響を与えるようにする必要があります。乳幼児が撫でられ、胸に抱かれ、遊んでもらえる状況を保つべきなのです。

岩の上に滴る水のしずくが時と共に石に形を与えていくように、子供達に継続的に与えられるポジティブあるいはネガティブな影響は、彼らをも時と共に形作っていくでしょう。子供の教育において、子供が受け取る適切な、理想的な刺激は、その年齢に適したものである必要もあります。その発達の手助けとなるべきものであり、過度であってもいけず、不足であってもいけないのです。性質の発達も支えてやる必要があります。またそれは家族のあり方に適合したものであること、周囲との関わりも保ってやる必要があります。矛盾するメッセージを送ったり、恐怖や失望感を与えてはいけません。体と精神の健全さを保つ上でも肯定的な影響となるようにするべきなのです。

結論として、子供の教育においては両親や医師、教育者や教師は子供達に適した、適度な量の刺激やメッセージを与える必要があるのです。





子供を取り巻く環境はだんだん悪化しているなと感じます。報道のされ方が変化してきていて、こういった環境は今に始まった事ではないという考えかたもあるかもしれません。

テレビやニュースをみても理解できないような事件がおきているし、町でも不審者注意の看板や、子供の目に触れてほしくない広告、店などがあります。そんな環境に囲まれて成長する子供が心配な親は多いはずで。

いくら親が気を使っても限界があります。そんな時、子供は自分で考え、行動します。あるいは、親が気を使っても子供が拒否する場合もあるかもしれません。そんな時、親という権限以外の子供が絶対に信用する何かが必要ではないかと思えます。親が見ていないからという理由ではなく、親が見ていなくても信用する何かがあるから自分はこう行動する、こう考える。ということが必要だとそう思います。親が過ちをすれば、子供がそれを論せるような何かが必要です。建物の柱がしっかりしていれば、その建物はしっかりと立っていられますが、柱が弱ければその建物はぐらぐらと不安定になるでしょう。さらにその柱が弱くなれば建物は倒れてしまいます。しっかりと立っているには、強く丈夫な柱が必要なのです。私は子供にこの柱をしっかりと得てほしいと思っています。そうすれば、ある程度安心できます。もちろん親ですから心配は尽きないでしょうが、柱があるとないとではだいぶ違うと思っています。しっかりとした柱を得てもらうためにも、今子供をしっかりと支えないといけないと改めて感じています。



レシピコーナー

サラダ クレープ



材料 (5~6 枚分) : 全粒粉菓子用 60g、牛乳 120g、
卵 50g (1コ)、砂糖 3g (小さじ1)、油 適宜、鶏肉 100g、
塩 少々、こしょう 少々、きゅうり 1本、セロリ 1本、トマト 1コ

【A】 : マヨネーズ 12g (大さじ1)、無糖ヨーグルト 30g (大さじ2) 粒マスタード 少々

作り方 :

- 1-ボールに全粒粉を入れ、真中に砂糖、卵を入れ、牛乳を加えながら泡立て器で混ぜる。
- 2-フライパンを熱し、油を薄く塗り、【1】を薄く流して焼き、表面が乾いたら裏返して焼く。残りも同様に焼く。
- 3-鶏肉は塩、こしょうをして蒸し、冷まして棒状に切る。野菜は5mm角の棒状に切る。
- 4-【A】を混ぜ合わせる。5-【2】に【3】をのせ、【4】を少しかけてきっちり包む。

子供たちが己の能力を伸ばし自身や社会に役立てられるように、
親が仕向け手を貸してあげれば、国家に新しい堅固な柱を建設したことになる。
反対に子供たちの人間的な感情を培ってあげなければ、
社会に蠍を解き放ったも同然となる。



定期購読 国内:6ヶ月 1300円、 1年 2500円

定期購読 国外:6ヶ月 1600円、 1年 3000円

バックナンバーや1年分の総集編もございますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

郵便振替口座番号: 00100-6-354012 口座名義: 月刊誌やすらぎ

三菱東京UFJ銀行 店番号: 630(春日部) 口座番号: 1134374 口座名義: 月刊誌やすらぎ

皆様のご意見、ご感想、ご質問を心よりお待ちしております。

「やすらぎ」編集部

<http://www.yasuragiweb.com>

info@yasuragiweb.com

yasuragi_nihon@hotmail.com

〒156-0045東京都世田谷区桜上水3丁目24-4、203
156-0045, Tokyo-to, Setagaya-ku, Sakurajousui, 3-24-4-203, JAPAN